第10回プラチナ大賞 応募用紙

|  |  |
| --- | --- |
| １ | 提出方法 |

* 応募用紙は、プラチナ大賞運営委員会事務局あてにワードファイル（.docx）のまま、メールで提出してください。

|  |
| --- |
| 送　付　先：pt-taishou@platinum-network.jpメール件名：【会員名】「プラチナ大賞」応募書類送付提出期限：2022年7月15日（金） |

* 次ページに「記入上の注意」があります。あらかじめご確認ください。

|  |  |
| --- | --- |
| ２ | 応募者情報 |
| 応募会員名(法人名／個人名) |  |
| 住　　所(資料等送付先) | 〒 |
| ご担当者①（必須） | ご所属・お名前 |  |
| 電話番号 |  |
| メールアドレス |  |
| ご担当者②（任意） | ご所属・お名前 |  |
| 電話番号 |  |
| メールアドレス |  |
|  |
| 共同応募者（会員） |  |
| 共同応募者（非会員） |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ３ | 事務局使用欄（事務局が使用します。空欄のまま提出してください） |
| 応募確認日 |  | 受付番号 |
| 応募確認者 |  |  |
| 備　　考 |  |

記入上の注意

|  |  |
| --- | --- |
| １ | 全体 |

1. 事例集掲載用資料・審査用資料は、公開可能な情報のみを記載してください。
2. 事例集掲載用資料・審査用資料は、図表や写真等を自由に使用して作成して構いません。ただし、第三者の著作権やプライバシー等を侵害することのないよう注意してください。
3. ページ設定（文字数、行数、余白など）は変更しないでください。また、図表等を用いる場合、余白にはみ出すことのないようにしてください。
4. フォントや文字の大きさは自由に設定して構いません。ただし、文字の大きさは10.5pt以上としてください。
5. 記載内容について、事務局がヒアリングする場合があります。

|  |  |
| --- | --- |
| ２ | 応募者情報 |

1. プラチナ大賞の実施に関する連絡（1次審査の結果や最終審査の案内など）は、記載されたメールアドレスあてに行います。
2. 記載された住所に、プラチナ大賞の事例集などを送付します。
3. 共同応募者は、会員・非会員に分けて、まとめて記載してください。

|  |  |
| --- | --- |
| ３ | 事例集掲載用資料（A4・1ページ）「第10回プラチナ大賞 応募用紙取り組み要旨（事例集掲載用）」 |

1. 当会では、会員の取り組みを広く発信するため、応募取り組みの内容を事例集としてまとめ、公開しています。事例集は、最終審査発表会・表彰式の会場配布、会員への送付、ホームページでの公開を予定しています。
2. 分量は、A4・1ページです。
3. 記載項目などの制限はありません。
4. 事例集掲載にあたり、事務局にて体裁等を整える場合があります。

|  |  |
| --- | --- |
| ４ | 審査用資料（A4・8ページまで）「第10回プラチナ大賞応募用紙　取り組み内容（審査用）」 |

1. 分量は、A4・8ページまで（本セクションのみで8ページまで）です。
2. 共通審査基準との対応などの項目に従って記載してください。

|  |  |
| --- | --- |
| ５ | 参考資料の添付（2点まで） |

1. チラシなど、取り組み内容が分かる参考資料を2点まで添付することができます。
2. 各点ともに、A4・6ページまでです。
3. 添付された資料は、あくまでも「参考」として扱います。審査のうえで考慮すべき情報は、必ず審査用資料の内部に記載してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 会員名称 |  |
| 取組名称 |  |
| 問 合 先 |  |

|  |
| --- |
| 取り組み概要 |

※以下の記載は、提出時に削除してください。

* 会員名称には、応募主体となる会員の名称を記載してください。共同応募の場合、非会員も含めたすべての共同応募者を記載してください。
* 問合先には、他団体から問い合わせがあったときの窓口（担当課、電話番号、メールアドレスなど）を記載してください。

|  |  |
| --- | --- |
| １ | 取り組み名称 |

|  |  |
| --- | --- |
| ２ | 取り組み概要 |
| ① 目的（解決を目指す社会課題） |

|  |
| --- |
| ② 手段（具体的内容） |

|  |
| --- |
| ③ プラチナ社会への貢献（該当する要素に“✓”を入れてください。複数可） |

□ A.エコロジー（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）

□ B.資源の心配がない（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）

□ C.老若男女が全員参加（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）

□ D.心もモノも豊かで自己実現が目指せる（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）

□ E.雇用がある（イノベーションによる新産業の創出）

|  |  |
| --- | --- |
| ３ | 共通審査基準との対応 |
| ① 社会的ニーズへの対応（大きく変化する社会的ニーズ（潜在的ニーズを含む）を的確に捉えているか） |

|  |
| --- |
| ② 創造性・革新性（アウトプットや取り組みのプロセスに新しい発想や工夫がみられるか。イノベーションや新産業の創出などの波及効果が期待できるか） |

|  |
| --- |
| ③ 実効性（取り組みは、課題解決策となっているか。社会・地域・産業等に対する効果があったか、あるいは期待できるか） |

|  |
| --- |
| ④ 協働の実現性（実現可能な取り組みの推進体制になっているか。産官民学など複数のステークホルダーが連携し、それぞれが持てる力を十分に発揮できるような体制・仕組みとなっているか） |

|  |
| --- |
| ⑤ 持続可能性（取り組みを継続・発展させるうえで、安易に公的資金に頼ることのない運営を志向し、持続可能な設計・仕組みとなっているか。取り組みを安定的に継続・発展させるための体制・仕組みとなっているか） |

|  |
| --- |
| ⑥ 展開可能性他の地域・企業・産業等の領域に取り組みの普及・展開があったか、あるいは期待できるか |

|  |  |
| --- | --- |
| ４ | 補足 |
| ① 今後の展開、更なる改善に向けた方向性 |

|  |
| --- |
| ② その他、アピールポイント |

|  |
| --- |
| ③ 活用した補助金・助成金など |

以上